

③9 としまみどりの防災公園の整備による 防災機能の強化と地域の賑わい創出

受賞機関 東京都 豊島区
独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部

キーワード 設計施工管理一体発注方式、Park-PFI、防災機能の強化、賑わいの創出

全建賞審査委員会の評価ポイント

地域の賑わいを創出する防災公園の整備。密集市街地改善と併せて防災公園を整備することで、地区全体の防災性の向上を図った点や、日常における賑わいの拠点として、池袋地区の回遊性向上に寄与している点、Park-PFI制度等を活用することで、民間活力も活かしつつ、発注スケジュールの短縮を図った点が評価された。

1. はじめに

としまみどりの防災公園（以下「本公園」という。）は、池袋駅から東に約1km、池袋副都心エリアと木造住宅密集地域に隣接している。豊島区（以下「区」という。）は、造幣局東京支局の移転に併せ、本公園を災害時の周辺地域からの避難機能の他、救援物資搬入及び集配拠点、ヘリポート機能を有する一時避難場所、また、池袋副都心の新たな賑わいの拠点として整備する検討を進めてきた。平成27年1月に区から要請を受けた独立行政法人都市再生機構（以下「UR」という。）は、防災公園街区整備事業の公園部分として本公園を整備し、令和2年12月に区が「IKE・SUNPARK」として全面開園したものである。

2. 事業の概要

本公園では、管理運営を見据えた整備を行うため、区とURは設計、施工、管理をそれぞれ担う企業が構成するコンソーシアムを公募する「設計施工管理一体発注方式」を採用した。この結果、良好な施設整備と共に、発注スケジュールの短縮が図られた。また、区は『公募設置管理制度（Park-PFI）』を活用し、民間活力を活かした管理運営の視点による整備を実現した。施設整備においては、上位計画とURの防災公園整備の実績に基づき、



災害時の防災機能と平常時の賑わいを実現した公園の全景

災害の発災直後、発生後3日間、3日以降の各活用形態を踏まえ、防火樹林帯、管理棟、防災倉庫、かまどベンチ、防災井戸、耐震性貯水槽、ソーラー照明灯等基本的な防災施設を整備したほか、平常時の賑わいの創出を目指し、区、UR、コンソーシアムが連携し協議調整を行い、既往技術に創意工夫を加えた設計、施工を行った。

3. 事業の成果

管理運営を見据えた整備の成果としては、舗装断面構造において、災害時の物資集積運搬やヘリポート機能、平常時のイベント開催等に伴う資材搬入に対応する耐圧基盤等を採用した。災害時トイレは倉庫棟に併設し、上水と井戸水を水源とすることでイベント時の使用も可能とするなど、災害時の利用と平常時の賑わいを見据えた防災公園の整備が実現した。また、管理運営企業は、Park-PFIによる建蔽率の10%上乘せ、設置管理許可期間の延伸のインセンティブを活用し、公募対象公園施設（カフェ等）と特定公園施設（ウッドデッキ等）の整備を行うと共に、自主事業による小型店舗の営業を開始している。



「IKE・SUNPARK」賑わいの様子

4. おわりに

区においては、造幣局移転後の災害時の活用と新たな地域の賑わいの創出が課題となっていたが、開園後の本公園は、カフェ、芝生広場、遊具広場等各々の場所で楽しむ人々で溢れ、賑わいが絶えない。また、区が大規模な防災イベントを開催するなど、事前防災啓発の場としても活用が始まっている。今後、本公園が益々地域の活性化と防災・減災に資する場となることを期待したい。

賛助会員 株木建設(株)